

北海道新聞 2013 年（平成 25 年）6 月 17 日（月曜日）

<フィンランドの知的障害者グループ 被災者癒やした歌声披露>

◎札幌でコンサート 聴衆と踊って交流

フィンランドの知的障害者施設「カーリシルタ学園」のメンバーによるチャリティー合唱コンサートが 16 日、札幌市北区の札幌サンプラザで開かれた。一行は、東日本大震災の被災地を訪問するために来日中で、約 240 人が、被災者を癒やした歌声に耳を傾けた。

（田島工幸）

札幌の NPO 法人ホップ障害者地域生活支援センター、社会福祉法人 HOP が、被災地にいる障害者の現状を知ってもらおうと企画。同学園と提携する檜山管内江差町の社会福祉法人「江差福祉会」の協力を得て実現させた。

一行は 9 日に来日し、宮城県栗原市、岩手県陸前高田市を回った後に道内入りした。

20 歳前後のメンバー 6 人は、フィンランドの子守歌や、坂本九さんが「レットキス（ジェンカ）」の曲名でカバーした「イエンカ」など 17 曲を歌い、聴衆といっしょに踊る場面も。

被災地で障害者が介助を受けながら階段を上る様子などを撮影した写真パネル約 40 枚も展示された。

ホップ障害者地域生活支援センターの竹田保代表理事は「仮設住宅で生活する障害者、高齢者は病院や買い物に行く交通手段がなく、支援が必要なことを多くの人に知ってほしい」と話した。

